

(様式1) 令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608370		
法人名	有限会社 わかば会		
事業所名	グループホーム きらら千畑		
所在地	秋田県仙北郡美郷町本堂城回字新谷尻214-7		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとり、尊重した暮らしができる様に生活歴、思いや意向の把握に努め、きらら千畑理念に基づいて支援し、安心して暮らす事に利用者様を主としたケアに取り組んでいます。
高齢化が進み生活面でもご自身ができる事が少なくなってきましたが、少しでも、自分らしく生活ができるように支援しております。
毎日のDVD体操、歌、ラジオ体操、ドライブは習慣になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園風景が広がる地域、同事業主(わかば会)が運営する有料老人ホームに隣接し「きらら千畑」はある。小さな菜園を作っており収穫した新鮮な野菜がホームの食卓に上る。四季を通じ近隣から山菜や地元の収穫物、芋の子や柿や林檎等も頂く。毎食ホームで調理された食事が提供され、利用者には馴染みの郷土食は好評である。6月には月16回のドライブ外出が計画されているが、実際はそれ以上の頻度で利用者はドライブや外気浴を楽しみ気分転換を図っているとのこと。屋内でも趣味や嗜好に配慮した創作活動や身体機能維持のための体操等、利用者が生き生きと暮らすことができるよう支援を行っている。管理者は職員のチームワークが良い支援に繋がると風通しの良いチーム作りを心がけており、職員たち自身もそれが強みであると話す。利用者一人ひとりに添った支援をという方針が職員間に浸透し実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない コロナ禍にて
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみのある地域社会に包まれながら、明るい笑顔ではつらつと自分らしく暮らすことにお役に立ちます」の理念、倫理綱領を毎朝職員全員で唱和し、共有しながら実践へつなげております。職員全員(マニュアル)を持参している。毎日、朝礼時に理念を唱和し確認しあっている。又、理念を掲示し、サービスの質の向上を目指している。	支援職員は利用者の明るい笑顔を引き出す会話や振る舞いを心がけ、利用者をより深く理解し、本人らしい生き生きとした活動を応援、管理者はじめ職員みんなが理念に添った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の代表の方に、運営推進会議に参加いただき、当ホームの活動報告を通して理解いただけるよう努めております。又、自家菜園で収穫した野菜を頂戴したり、お花を頂いたりと交流を図っております。コロナ禍により運営推進会議は書面となっている。地域の方より季節ごとに花や野菜を頂いている。スタッフの朝、夕の挨拶。	平成15年のホーム開設から地域の理解を得て、地域との良好な関係を築くように近隣住民との交流を図っている。現在も散歩時に互いに声を掛け合ったり、季節の収穫物を頂くなど、コロナ禍にあっても感染防止に配慮しながら付き合いを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症なんでも相談室として、認知症に限らず、介護の相談窓口として活動し地域貢献ができるよう取り組みをしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、利用者の状況報告をし、委員の方より意見や情報を頂いたり、意見交換した事を職員にも伝え、サービス向上に生かしております。コロナ禍により運営推進会議は書面にて実施している。行政、地域代表、家族代表、民生委員の方等の参加を得ております。	コロナ禍により書面での開催がつづいている。ホームからの報告だけではなく、議事録には各出席者の内容も記載し、民生委員からの返信も添付する等、サービス向上への事業所の取り組みが書面からも確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、担当者と連絡を取り合っている。月1回、入居者、待機者の情報を報告している。月1回、きらら通信を発行し、役場へ届け、報告をしている。	運営推進会議で町の福祉担当者や介護保険事務所と連絡を取り合う他、生活保護担当者とは必要に応じ相談をしている。またホームの「きらら通信」を市町村に送付しホームからも情報発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化等の指針を定め、3ヶ月に1回開催し、話し合いを実施、取り組んでいます。言葉一つからも虐待へつながる事を伝え、日々、話し合いや情報を共有し防止に努めております。行動制限のないよう、見守り、安全確保している。夜間のみ、施錠行い、安全防犯に徹している。	身体拘束適正化等の指針を定め、3ヶ月に1回委員会を開催し話し合いを行っている。日々の申し送りやケア会議でも支援の振り返りを行い、言葉遣い等が適切かどうかを意識し支援していることが、職員の聴き取りからも確認できた。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が制度について学び理解する事ができるよう、管理者、介護支援専門員は、自らが制度について積極的に学習し、知識を深めると共に、日頃より身元引受人と職員が関りを持ちながら、円滑な活用ができるよう努めております		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際は十分説明し不安、疑問、意向をお聞きし納得を得ている。又、制度改正時はその都度説明し同意を得ています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者様には常に声をかけ、要望を引き出す努力をしている。ご家族様には面会時等、日々の交流の中でしっかりコミュニケーションを図り、思いを汲み取るよう努めています。コロナ禍であり、入居料支払い時、要望等を伺うようにしている。運営推進会議等にも意見を伺っている。意見箱の設置はあるが、日常的に意見のしやすい雰囲気づくりに努めている。	家族への連絡は、電話や毎月発行の「きらら通信」送付時などに利用者の近況を伝え、家族からも要望を丁寧に向い、利用者支援やホーム運営に反映させている。遠方の家族とのリモート通信は、コロナ禍で面会に来られない家族の要望により始めたが、定着し、利用者家族双方に喜ばれている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	時間のある限り、ミーティングや連絡ノートを活用し、一人ひとりの意見や提案を聞き、場を作り運営や業務内容、その他についての要望や提案を聞き反映しています。管理者は、現場の状況を把握している。職員の提案や意見に耳を傾け、寄り添い信頼関係を築いている。	職員はホーム運営や支援への提案や意見を管理者に話しやすい関係にあり、勤務や休みの希望も可能な限り応じてもらっている。事業所会長もよくホームを訪れ、職員とのコミュニケーションを図り、働きやすい環境作りに協力している。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症により、現在交流の機会を作ることとはできていない、ネット会議に参加できればと思うが、参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人が遠慮せず、安心した生活を送れるように傾聴し、聞き入れ信頼関係を築けるように努めています。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、要望意向を十分に伺い、コミュニケーションを多くとり、ニーズを引き出す努力を行い、話し合い、関係づくりに努めております。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況を見極め、何が必要か、一方的な介護にならないように気をつけると共に、生活の場であるという雰囲気を感じられるよう、助け合い、支えあう関係を築いております。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族との繋がりを大切に思っ頂けるようご家族と連携を取りながら、一緒に本人を支えているという関係づくりに努めております。毎月、きらら通信と写真を送付しコメントも記入しております。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	住み慣れた地域へのドライブ支援、電話でのお話、リモート会話の支援をしております。感染症対策の為、ガラス越しでの面会、リモート会話等繋がりを大切にしております。	利用者馴染みの場所へのドライブ外出や散歩を日常的に行っている。家族からの要望で、遠方に暮らす息子家族とのリモート通話や、携帯電話での通信の支援も行っている。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴を把握し、利用者様の中に入り、見守り、関り合える様、穏やかな関わりができる様心がけております。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了後でも必要に応じ、相談や支援を行っています。又、居宅介護支援事業所や本人を取り巻く関係機関についても適宜連絡等行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に沿えるよう努めています。困難な場合は普段の利用者様の行動や表情から思いを汲み取り、ケアカンファレンスにて利用者本位のサービスが提供できているか検討し支援に生かしております。毎日の生活の様子や会話等、本人の思いや希望、気づきに努め、職員間で共有し支援につなげるよう努めています。	日頃から利用者一人ひとりと会話の機会を重要視し、その方の個性をよく理解し心情を汲みとって支援することを心がけている。職員が連携し情報を共有することで利用者本位のサービスに取り組んでいることが、支援の様子や職員の聴き取りからも確認できた。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係事業所から情報提供を頂き、これまでの習慣、生活の経過等の把握に努めています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	カンファレンスを行い、一人一人の問題や課題を出し合い、その人らしい生活の仕方やなじみのある生活ができる様、介護計画に組み入れながら作成しております。又、ご家族にも意向や意見をお聞きしながら検討しております。利用者の生活の場である事を基本に、利用者、家族の意向を確認しモニタリングを行い、サービス担当者会議で検討後、同意を得て、介護計画の作成を行っている。又、職員間で共有している。状態の変化が著しい場合都度、状況把握に努め、見直しの対応必要と思っております。	家族からの聴き取りや日常支援の中で本人の希望を把握したり、本人の状況を職員間で共有したりし、カンファレンスでの話し合いに反映させている。これらを基に個別介護計画作成担当者が作成している。利用者の状態に変化があれば都度話し合いを行い、プランの見直しを実施している。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、利用者の日々の心身状態や介護計画の実施状況も記録しております。午前、午後にミーティングを行い、状態の変化や気づき等は連絡ノートを活用しケアの統一を図ると共に介護計画に反映させております。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策により、充実した暮らしが継続できるよう、交流等は難しいが玄関先で日向ぼっこしながらの挨拶や、季節の移り変わりをかんじて頂けるようあんしんして生活ができる様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の嘱託医はおりますが、ご家族様、ご本人の希望の医師の受診を行っております。主治医とも、定期的に連絡報告をし適宜必要な場合は、地域連携医との調整をして頂くなど、適切な医療が受けられるよう支援しております。月に1回の受診には職員が同行している。随時、体調に応じ受診できるようにしている。都度、ご家族に症状の説明をしている。	入所時に本人家族の希望を聴き、かかりつけ医を決め受診している。必要に応じて家族同伴で医師から説明を受け治療方針を相談するなど、本人と家族にとって納得のいく適切な医療が受けられるよう支援している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で状態観察を行い、身体的、精神面での問題点や心配事等を担当医師や看護師に連絡相談しながら、適切な医療が受けられるよう支援しております。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は安心して治療に専念できるように、スタッフの同行、家族、病院関係者と蜜に情報交換と、早期に退院できるように常に病院関係者との関係づくりに取り組んでいます。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様のご意向を確認し事業所にてできる可能なケアの説明を十分行い、納得、安心していただけるよう努めております。随時、本人、ご家族様と話し合いながら、病院やその他事業所へ結び付けるなどの支援を行っております。事業所でできることは支援している。都度話し合いを行い、適切に対処しながら不安にならないよう支援している。	入居時に重度化等を含む状況変化時の本人及び家族の意向を確認し、ホームの方針を説明している。利用者の状態の変化は都度家族に報告し、必要に応じて医師や家族と話し合い、納得の上で移行など今後の方針を決めている。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習の受講、急変時の対応、感染症に対する内部研修を行っています。マニュアルを作成し、職員の対応の統一を図るよう努めております。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の立会いのもと、避難訓練を行っており必要な情報や知りたい事を、専門の方にお伺いし、利用者様や自分たちを守るすべを周知徹底しております。コロナ禍にて近隣の方々の協力は現在ありません。避難訓練や自動通報装置の使い方など常に再確認している。コロナ禍も納まり、地域住民の協力を得られるようにと思っております。	消防署立ち会いの避難訓練を年2回実施し、署員より助言を頂いている。またホーム独自の非常災害対策マニュアルが作成され、非常時や災害時の具体的な職員の動きや対応を確認し合っている。隣接の有料老人ホームとの協力体制も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話させていただいている精神で、ご本人の人格を尊重し自尊心に配慮した支援を心がけています。伺いや確認をしながら支援しています。日々、振り返りを行いながら、スタッフ間で話し合い、相手を尊重し接するよう心がけ、言葉かけの対応に配慮しています。	利用者一人ひとりをよく理解し、本人に心地よい言葉遣いや接し方を職員間で共有しながら支援している事が職員の聴き取りからも確認できた。囲碁将棋を趣味にしている利用者同士の逸話では、利用者のプライドを尊重しながら職員が温かく支援している様子がかがわれ、職員は日頃から一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる身だしなみ(髭剃り、ブラッシング)はして頂いております。衣類はご自分で選んで頂いておりますが、好みや希望、清潔を考え支援しております。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったメニューの考案や下ごしらえ等一緒に行い、盛り付けや皿など一人ひとりの状態に合わせて配膳しています。楽しみの多くを占める食事を美味しく、残さず食べれるよう配慮しております。出きる事をお手伝いいたしております。食事は3食とも職員の手作りである。 山菜等の下ごしらえは入居者様と一緒に昔を思い出して頂く問いかけ、課題を引き出している。施設の畑で収穫した野菜は日々食事の食材として提供している。	季節の山菜や旬の野菜を使った地元の家庭料理が中心である。ホーム菜園での収穫、山菜等の下ごしらえ、好みの味付けや調理法等、利用者と職員が会話しながら食事準備や片づけを行っている。季節感や生活感を大切に食事を楽しむことをホームの方針としている。調査訪問当日もリビングのひとつの食卓をみんなで囲み、和やかに食事を楽しむ様子が見られた。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量(栄養・バランス)、水分量を把握し、1日を通じて確保し記録に記入し状態把握に努め体調管理に努めております。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの能力に応じ対応しております。残存機能を見ながら、介助が必要な方はお手伝いさせて頂き、予防に取り組んでおります。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた時間、タイミング、誘導声かけを行い個々にあった支援をしています。排泄状況を確認できる表を用い個々に気持ちよく排泄できるよう支援しております。	個々の利用者の排泄パターンを把握し、声かけを含むトイレ誘導の仕方や排泄介助など、その人に合った支援介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気を配り、食物繊維を多く摂って頂く等心かけ、ヨーグルト、オリゴ糖の提供、個々に応じた緩和剤の服用支援をしております。排泄状態を確認できる表を用い、適度な運動を取り入れながら対応しております。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者本位で入浴の声かけや、本人の希望に合わせて安心してゆっくり入浴できるよう支援しております。入浴拒否の方でも言葉掛けや時間をずらす等工夫しています。	入浴の声かけのタイミング等、利用者それぞれに工夫して行っている。利用者にとって快適な脱衣場や浴室の温度設定に配慮し、入浴をゆっくりと楽しんでもらうよう心がけている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて無理せず、負担がかからないよう支援しております。居室の温度、湿度管理を毎日確認し寝具等の調整を行い、快適に安心して休息ができる様に支援しております。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用、使用している薬については全職員が周知できるよう情報を共有しています。服薬の際には、日にち、名前を読み上げ、必ず二人で確認できる体制にし安全に服薬できるようにしております。又、主治医、薬剤師へ適宜相談できる様にしています。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった支援、好みや生活習慣を把握し得意分野で個々の力を発揮して頂き、感謝の気持ちを伝える事で信頼関係を構築しております。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、天候やその時の利用者のたいちょうを把握し希望に沿った外出支援をしております。個別で施設敷地内への散歩、外気浴等も行っております。車でのドライブは好評で表情豊かな場面を引き出せています。	ドライブ外出や外気浴が利用者の気分転換となり心身の健康に大切であると考え、日常的に外出支援が行われている。隣接する有料老人ホームの屋外テラスは田園風景が広く見渡せる。外気浴がてら車椅子で移動し田圃の様子などを話題に過ごす時間は利用者の楽しみになっている。花見や紅葉など遠出の外出も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持している方はおりません。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心で心地よく生活が送れるようホーム内の室温、湿度に配慮しフローア-は季節の花、観葉植物の配置をで季節を感じて頂き、心地よく過ごせるよう配慮しております。施設外回りには、花や野菜を植えフローア-は季節のものを利用者様と一子 を似飾り付けを行っています。整理整頓を心がけ、調理の様子も見られ、家族的雰囲気を中心掛けております。	玄関に菊やダリアの季節の花が飾られ、リビングの設えも家庭的である。棚やテーブルにさりげなくマスコット等を配し、壁面の掲示等も生活感のある温かな雰囲気を醸している。台所、浴室、廊下、トイレと掃除が行き届き、清潔で居心地のよいホームになっている。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所でゆっくり過ごせる様にソファ-やテーブルを配置し、自由に居心地良く過ごせるように努めております。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた寝具、茶碗、湯飲み等の馴染みのある物を持参して頂き、安心して過ごせる様、心地よく過ごしていただけるよう配慮しております。	花柄のカーテン、壁面の装飾、自宅で使用していた寝具や馴染みの調度があり、ホーム提供のチェストや二人がけのソファ-が置かれている。居室は居心地のよい寛ぎの設えになっている。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安心、安全に心がけ、ゆったりとしたマイペースが確保され、車椅子の方も安全な生活を過ごせる様工夫し、動線にも配慮した環境作りをしております。		